

電子機器事業

ポートフォリオの拡充により
新たな事業領域を開拓し、
長期安定的な成長へ

取締役副社長執行役員
電子機器事業本部長
岩屋 良造



2021年3月期の概要

モーターは第1四半期は前年同期比で大きく減収となったものの、第2四半期以降の鮮明な受注回復を受け通期で大幅な増収となりました。LEDバックライトはスマートフォンにおける採用モデルの減少に伴う需要減により、売上高は減収となりました。

この結果、売上高は3,638億円、営業利益は176億円、営業利益率は4.8%となりました。

2022年3月期の見通し

モーターは成長が加速し、大幅な増収増益を見込んでいます。エレクトロデバイスはLEDバックライト採用モデルの台数減少による減収減益を見込んでいます。センシングデバイスは売上高はほぼ横ばいも収益性の改善による増益を見込んでいます。

なお、2022年3月期より一部事業についてセグメントの移管を実施しております。

中期事業計画

モーターを収益の柱として
成長が加速

主なポイント

- 1 モーター
すべての製品領域で
次なる成長ステージへ
- 2 LEDバックライト
製品ミックスは
車載とスマートフォンで継続
- 3 センシングデバイス
車載向けおよび産業向け
(成型機等)の拡販

2021年3月期の概況 電子機器事業ハイライト

売上構成比
37%

ROIC
10%

モーター事業
収益拡大

製品ポートフォリオ
拡大中

次の10年を見据えた基本戦略

電子機器事業の基本戦略は、コア事業であるモーターおよびセンサーの基盤強化に向けて、サブコア事業で創出したキャッシュをコア事業に再投資し利益を最大化させることです。技術変化が速く収益機会の大いサブコア事業においては、徹底した固定費軽減策と事業リスクの適正な見極めをすることが重要な課題となります。長期安定的な成長に向けて、ポートフォリオの拡充や他の8本槍製品との相合による新たな事業領域の開拓をおこないます。

コア・コンピタンス

超精密加工、垂直統合、グローバル展開、大量生産といった当社のDNAに加え、センサー、光学、磁気などエレクトロニクス分野のコア技術を融合。厳しい品質特性が要求される自動車向けや、短期間での品質・数量を両立した垂直立ち上げが要求されるスマートフォン向けなど、広範な市場に製品を展開。生産の自動化/半自動化や従業員の教育訓練の整備など、顧客要求に応じたダイナミックな拠点体制も競争力の源泉となっています。

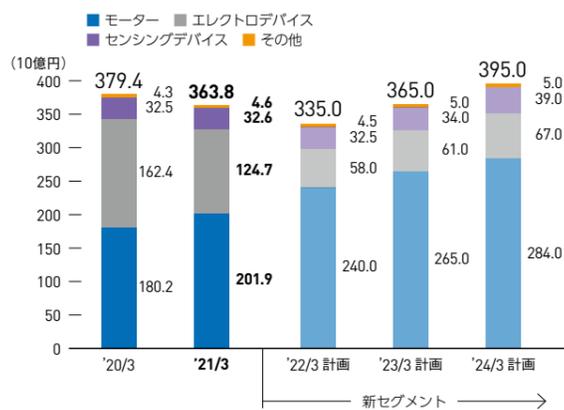
『「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

モーターにおける相合は、機能部品を複合化することにより付加価値を高めていくことです。具体的には、モーターと減速機やエンコーダを統合することによるモジュール化、またはモーターと制御機器を統合することによるユニット化などがあります。複合化によりモーターのビジネスモデルを単体型から提案型へより高付加価値の領域へ転換することが可能となります。例えば、高効率・高精度のベアリングと高耐熱磁石との相合をはかり150℃の高熱に耐える車載モーターが実現されます。これまでOA機器やPC周辺機器向けで培った強みをいかながら情報通信・

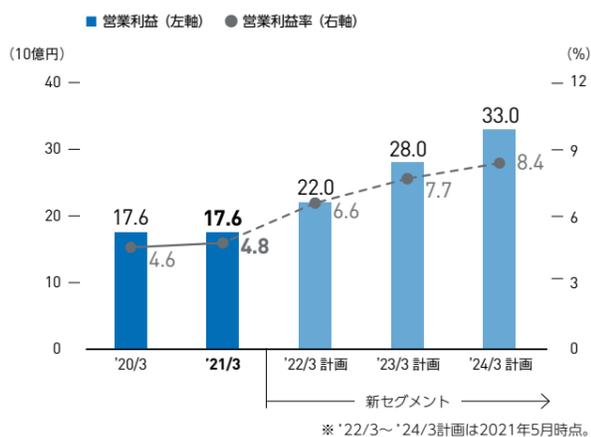
ロボティクス・車載製品への展開を加速し、ポートフォリオの拡大と付加価値の拡大を実現してまいります。



売上高



営業利益/営業利益率



社会課題を解決するソリューション創出

カーボンニュートラルに向けた取り組みの一環として、相合をいかした小型で精密なモーターの供給を通じてお客様の環境負荷低減に貢献していく方針です。例えば、ICT社会が実現されていくなかで、データセンターの電力消費/CO2排出量が社会的課題になっています。このような課題に対して、当社では最高品質のベアリング、モーター、アナログ半導体などを相合した冷却用ファンを供給することで、長寿命、高耐候性、省電力、静音化といった側面から環境負荷を低減させることができます。

今後も、部品メーカーとして供給責任を果たすと同時に、気候変動への影響の低減といった社会課題の解決に貢献してまいります。



ファンモーター製品群